

人間を漁るものへ

§はじめに

- ・人間を漁るとは
- ・救われるとは：神の恵みによって、聖なるものとされる、罪の奴隷から解放される、神の子とされる、永遠の命を頂く＝喜び
- ・人間を漁るとは：喜びを伝えることでもある喜びの宅急便

§目的 “私たち一人一人も人間を漁るものへと招かれている” ことを再確認する。

§内容

- ・聖書箇所：ルカ 5：1-11
- ・3つのポイント

①イエスの頼み（舟を漕ぎ出すように）	5：1-3
②イエスの命令と従順への祝福	5：4-7
③イエスの召命（人間を漁るものへ）	5：8-11

§解説

①イエスの頼み（舟を漕ぎ出すように）

1.神のことば（1節）

- ・神の国の福音

2.二艘の舟（2節）

- ・ペテロ（シモン）の舟（3節）及びヤコブとヨハネの舟（7、10節 仲間の者たち）
- ・大漁への布石

3.舟を漕ぎだすように（3節）

- ・直接的目的は舟から教えられるためであるが、大漁への布石でもある

4.舟から教えられた（3節）

- ・音響効果（ガリラヤ湖の水面に反射）

②イエスの命令と従順への祝福

1.網をおろしなさい（4節）

- ・ペテロの心境（5節） 漁師のプロ
- ・ペテロの応答

2.従順への祝福

- ・大漁（6節） =>従順な者への祝福
- ・従順とは

3.仲間の者たち

- ・共同作業・協力関係（7節）
- ・大漁の意味

4.ペテロの応答（8、9節）

- ・自分の罪深さに気付く

③イエスの召命（人間を漁るものへ）

1.こわがらなくてもよい（10節）

2.イエスの招き

- ・漁師から人間を漁るものへ（10節） イエスの招き
- ・紀元前600年、預言エレミヤ 16：16の成就

3.何もかも捨てて（11節）

- ・家族・生活の手段を捨てて、絶対的信頼、自発的服従
- ・B I Cの宣教師の方々

§適用

①神に従順なものとなる

- ・基本は：へりくだりと罪意識
- ・おこころとみこころ：自分の思い、私が、私は、（主語が私） v s 神と自分との関係（神が主語） 4則

②人間を漁るものへの召命

- ・人間を漁る==>福音を伝えるものとして献身する
- ・たとえ寝たきりでも
- ・締めくくりのみことば：ヨハネ 3：36